

サンプル：他校についてもすべて公表済み

様式2の(1) (A4判縦長)

学習成績分布表

平成 25年 1月 7日

中学校長

平成25年3月卒業見込み者の第3学年の評定

段階別の人数 及びその割合	教科	国	社	数	理	音	美	保	技	外	備考
		語	会	学	科	楽	術	健 体 育	術 ・ 家 庭	国 語	
5を与えた人数 とその百分率	人数	30	51	39	49	30	50	47	47	49	
	%	14.9%	25.4%	19.4%	24.4%	14.9%	24.9%	23.4%	23.4%	24.4%	
4を与えた人数 とその百分率	人数	50	53	48	51	94	68	65	66	41	
	%	24.9%	26.4%	23.9%	25.4%	46.8%	33.8%	32.3%	32.8%	20.4%	
3を与えた人数 とその百分率	人数	95	65	85	67	67	74	66	68	72	
	%	47.3%	32.3%	42.3%	33.3%	33.3%	36.8%	32.8%	33.8%	35.8%	
2を与えた人数 とその百分率	人数	23	29	26	31	7	6	20	17	35	
	%	11.4%	14.4%	12.9%	15.4%	3.5%	3.0%	10.0%	8.5%	17.4%	
1を与えた人数 とその百分率	人数	3	3	3	3	3	3	3	3	4	
	%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	2.0%	
合 計 人 数		201	201	201	201	201	201	201	201	201	

中学校評定合計平均値

95

記入上の注意

- 1 中学校評定合計平均値に加えた者の評定とする。
- 2 他都道府県からの志願者（埼玉県又は茨城県の本県隣接学区内の公立中学校に在籍する者を除く。）については、中学校評定合計平均値の欄に斜線（/）を引くこと。

サンプル：他校についてもすべて公表済み

平成25年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号

高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

本校への入学を強く希望し、基本的な生活習慣が身につけており、次のア～エの要件を1つ以上具備する者。

- ア 学習成績が優れており、本校入学後も積極的に学習活動に取り組む強い意志を持っていること。
- イ 運動系及び文化系部活動に意欲的に取り組んだ者で、本校入学後もその活動を積極的に継続していく強い意志を持っていること。
- ウ 生徒会活動や福祉活動等に熱心に取り組んだ者で、本校入学後もその活動を積極的に継続していく強い意志を持っていること。
- エ 本校入学後も継続して自己の夢実現に励む強い意志をもっていること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	国語・数学・英語・理科・社会の5教科について、各教科100点満点の合計500点満点で評価する。
(2) 調査書	各評価項目の評価を基にして数値で評価する。
(3) 志願理由書	記載事項全般について審査する。
(4) 適性検査	面接適性検査及び実技適性検査のうちいずれか一つを選択する。 面接適性検査は、原則として面接監督者3名が受検者3名に対し1組当たり約10分間の集団面接を実施する。 実技適性検査では、野球(男)、サッカー(男)、バスケットボール(男・女)、バレーボール(男・女)、美術(男・女)、書道(男・女)の6種目のうちから1つを選択する。 なお、面接適性検査・実技適性検査ともに100点満点で評価する。

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	国語・数学・英語・理科・社会の5教科について、各教科100点満点の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書

調査書の評定値(算式1)と下記のア～オの評価項目(50点満点)の合計点を調査書総合得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	調査書中の全学年の教科の評定を合計した値について、算式1を使用して求めた値で評価する。 また、3年次の「国語」「社会」「数学」「理科」「外国語」の教科の評価が「4」または「5」がある場合は評価する。 なお、各学年において教科の評定が「1」がある場合については、慎重に審議する。
イ 出欠の記録	第1学年から第3学年まで3年間を通して皆勤である場合は評価する。

	なお、3年間の欠席日数の累計が30日以上の場合については、慎重に審議する。
ウ 行動の記録 (第3学年)	10項目の中で○印が6個以上ある場合は評価する。 なお、○印が2個以内の場合については、慎重に審議する。
エ 特別活動の記録	生徒会活動において、生徒会本部役員を務めていた場合は評価する。
オ 部活動等の記録	部活動において、部活動の活動実績が一定以上である場合は評価する。 その他において、各種検定の取得状況(英語検定、漢字検定、数学検定において3級以上)及び学校外で個人が顕著な福祉活動(ボランティア含)があった場合も評価する。
カ 総合所見	記載内容に問題があると判断された場合については、慎重に審議する。
キ その他の欄	記載内容に問題があると判断された場合については、慎重に審議する。

(3) 志願理由書

記載事項を基にして審査する。

評価項目	評価基準
ア 志願理由	記載内容について、本校の期待する生徒像及び(2)調査書の評価項目に照らし、特筆すべき事項がないかどうか審査する。
イ 自己アピール	記載内容について、本校の期待する生徒像及び(2)調査書の評価項目に照らし、特筆すべきものがないかどうか審査する。

(4) 適性検査

①面接適性検査

原則として面接監督者3名が受検者3名に対し1組当たり約10分間の集団面接を実施し、各々の面接監督者が下記のア～ウの評価項目の評価を基に総合的に判断してA・B・C・Dの4段階で評価し、それらを数値化して合計して100点満点で評価する。C評価が2つ以上またはD評価がある場合については、慎重に審議する。

評価項目	評価基準
ア 入学への意欲	本校を志望した動機が明確であるか、また入学後の高校生活に意欲的に取り組もうとしているか等について評価する。
イ 応答の的確性	面接監督者の発問の意図を的確に捉え、自己のことをきちんと認識したうえで、しっかりと自己を表現することができるか等について評価する。
ウ 面接における態度	面接における態度が中学生に相応しく清潔感のあるものか、また言葉遣いや基本的作法がきちんとできているか等について評価する。

②実技適性検査

原則として実技監督者2名により実施し、下記のア～ウの評価項目の評価を基に評価項目ごとにA・B・C・Dの4段階で評価し、それらを数値化して合計して100点満点で評価する。評価項目アでC評価またはD評価がある場合については、慎重に審議する。

評価項目	評価基準
ア 意欲・態度	本校を志望した動機が明確であり、入学後に部活動を含めた高校生活全般に意欲的に取り組もうとしているか、また態度が中学生に相応しく清潔感のあるものか等について評価する。
イ 基礎技能	受検した種目に関する基礎的・基本的な体力や技能・動作等がきちんと備わっているか等について評価する。

ウ 応用技能	受検した種目に関する専門的な技能や判断力・表現力等がきちんと身に付いているか、また部活動において3年間にわたる活躍が期待できるか等について評価する。
--------	--

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

- ① 「学力検査得点」、「調査書総合得点」、「適性検査得点」の3つの合計値を「総合得点」とする。
- ② 「総合得点」の得点順に受検生を並び替え、審議の対象となる項目のA～キに該当しない者を、上位から一人ずつ審議し、予定人員の80%以内を入学許可候補者内定者とする。
上記で決まらなかった者においては、「総合得点」の得点順に受検生を並び替え、上位から慎重に審議し入学許可候補者内定者とする。

※ 審議の対象となる項目

- ア 調査書中の必修教科（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭及び外国語）の評定の各学年の欄に評定1の教科が一つでもある場合
- イ 調査書中の3年間の欠席日数の累計が30日以上の場合
- ウ 調査書中の行動の記録（第3学年）における10項目の中で○印が2個以下の場合
- エ 調査書中の総合所見欄において，記載内容に問題があると判断された場合
- オ 面接適性検査における評価でC評価が2つ以上またはD評価がある場合
- カ 実技適性検査における評価で「意欲・態度」の項目でC評価またはD評価である場合
- キ 検査当日に問題となる行動がある場合
等が審議の対象となる。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には，選抜のための資料に加える。なお，提出されたことにより，不利益な取扱いをすることのないよう十分に留意する。

5 その他

過年度卒業者については，個別に話を聞く機会を設ける。

平成25年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 定

高等学校 定時制の課程 普通科

1 期待する生徒像

本校を志望する動機と高校生活への意欲が明確で、本校教育に対する適性を有し、自己の能力を十分に発揮することが期待できる生徒。

2 選抜資料

(1) 学力検査	国語、社会、数学、理科、英語5教科の成績
(2) 調査書	全教科の評定を含む記載事項
(3) 面接	複数の面接官による個人面接
(4) 志願理由書	記載内容

3 評価項目と評価基準

(1) 学力検査

正解表に基づき採点し、各教科の得点及び5教科の合計点を算出する。

(2) 調査書

「平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項」Ⅰ前期選抜 第6選抜方法の算式1により算出した数値で評価する。また、次の項目については審議対象とする。

学籍の記録	中学校を卒業して5年を経過した場合を審議対象とする。
教科の学習の記録	備考欄に記載のある場合を審議対象とする。
出欠の記録	中学校での欠席日数が極めて多い場合を審議対象とする。
行動の記録	○が1つもない場合を審議対象とする。
部活動等の記録	記載内容により、審議対象とする。
総合所見 等	記載内容により、審議対象とする。

(3) 面接

複数の面接官により、個人面接を行う。下記の評価基準を基にして、30点満点で点数化し、a～dの4段階で評価する。評価dについては特に慎重な審議の対象とする。

社会性	服装は整っているか。頭髪は不自然ではないか。派手な装飾品を身につけていないか。
協調性	入退室・面接中の態度はよいか。質問に対して誠実に答えているか。集団生活に適応できそうか。
意欲	志望の動機は適切かつ明確であるか。高校生活への目標が適切かつ明確であるか。

(4) 志願理由書

志願理由	本校志望の動機や高校生活への意欲を確認し、評価する。
自己アピール	十分にアピールできているかどうかを確認し、評価する。

4 選抜方法

(1) 各受検者について、学力検査5教科の合計値に面接の点数及び調査書の評定について算式1で算出した値を加えた数値を総合点とする。

(2) 受検者の総合点を降順に並べ、上位の者から調査書及び志願理由書の記載内容等も含めて総合的に審議し、判定する。